

# 2021年2月期 決算説明資料

株式会社ワイズテーブルコーポレーション

(証券コード： 2798東証第二部)



2021年4月26日

## 1. 2021年2月期 業績概要と今期の見通し

- 2021年2月期 売上高の状況
- 2021年2月期 業績概要（連結）
- 資本政策の状況
- 2022年2月期 通期見通し（連結）

## 2. 当社グループの近況とトピックス

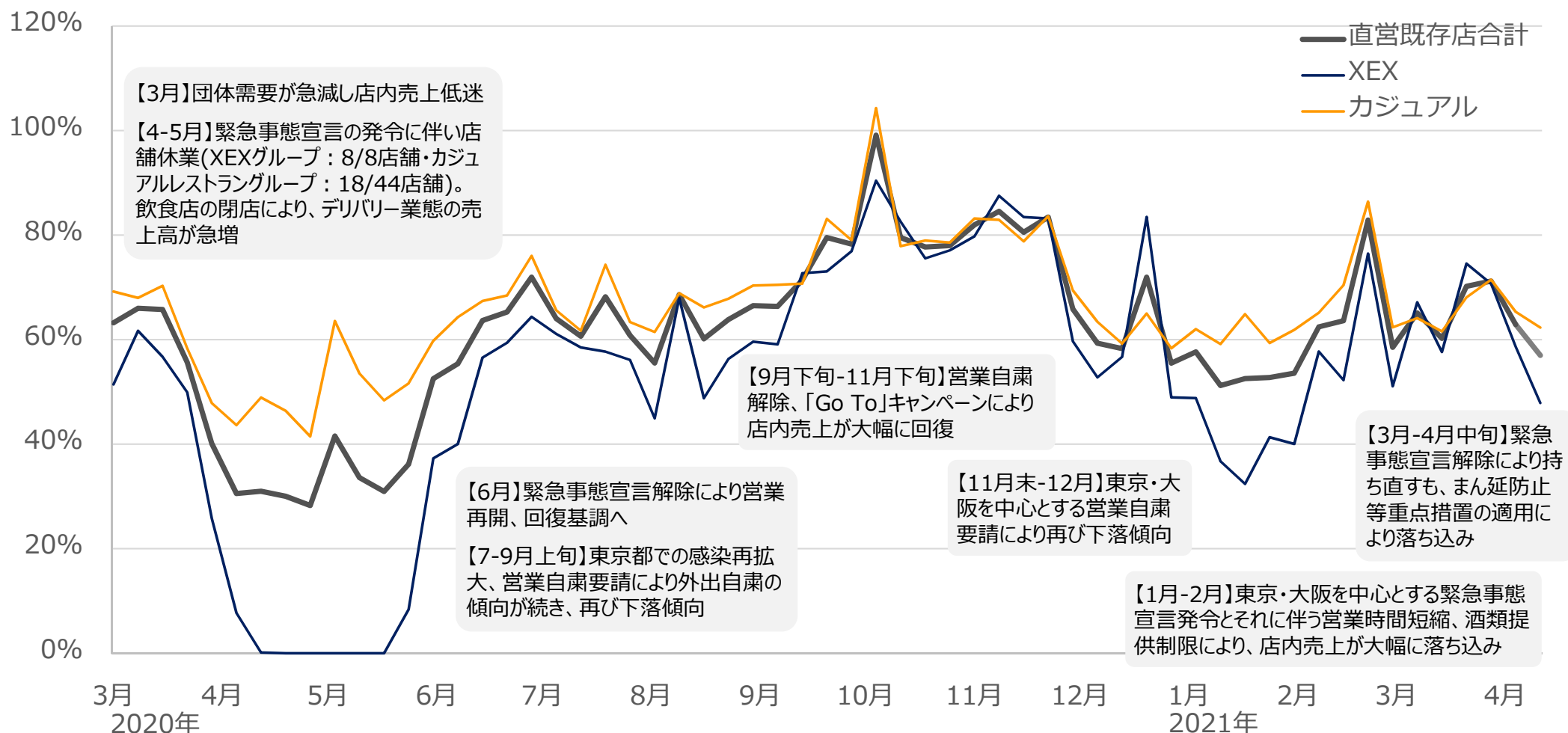
- 2022年2月期の取り組み
- CÉ LA VI TOKYO

# 2021年2月期 売上高の状況

- 売上高は新型コロナウイルス感染拡大の状況を受けて、回復と落ち込みとを繰り返した
- 通期の既存店売上高前年比（月次ベース） 全社61.6%（XEX52.0%、カジュアル67.0%）

## 2021年2月期の直営既存店売上高前年比（週次、同曜日比較）

※2021年3月・4月はそれぞれ2019年3月・4月比

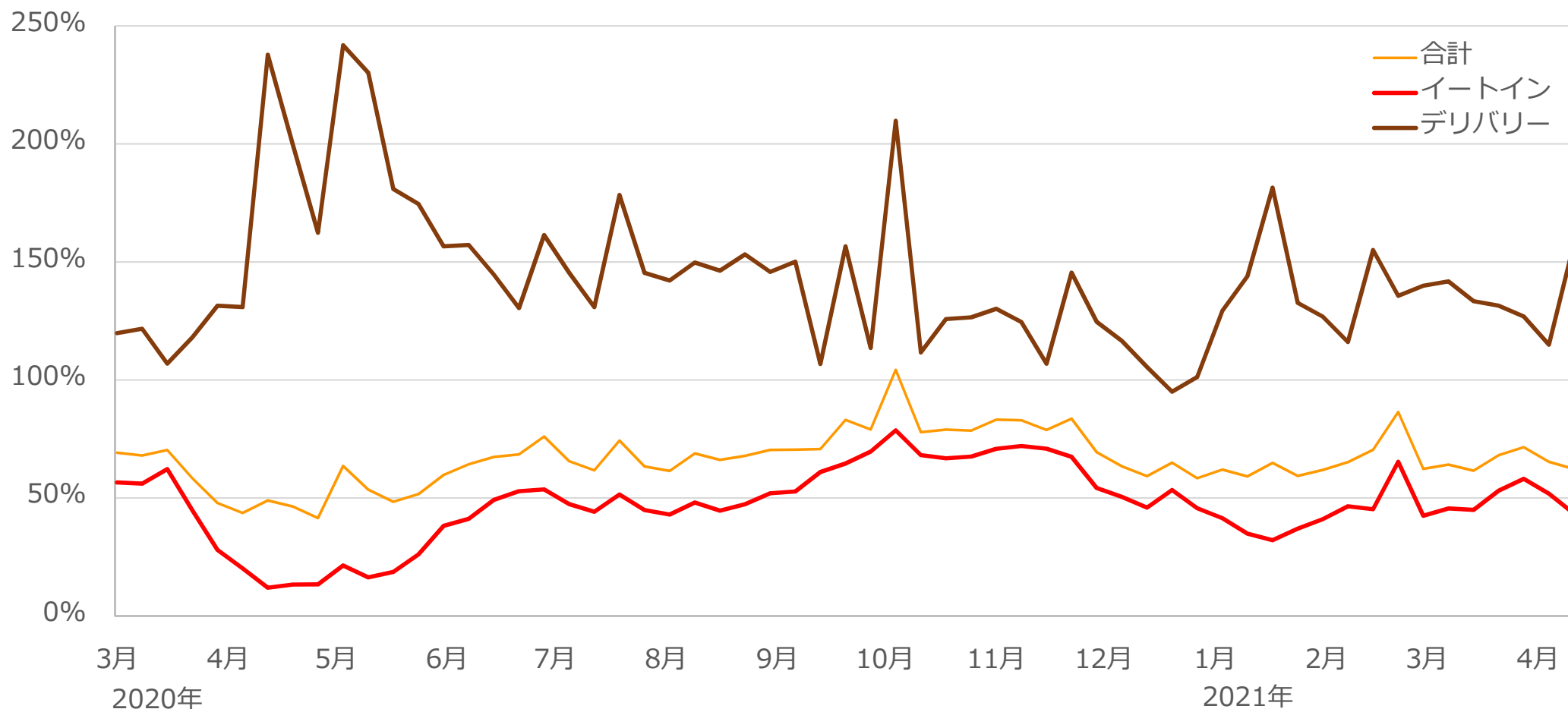


# 2021年2月期 売上高の状況

- カジュアルレストラングループの売上高は、デリバリー売上が年度を通じて好調に推移
- イートイン売上は、郊外店舗は回復がみられたが、都心部大型店が苦戦

## 2021年2月期のカジュアルレストラングループ 直営既存店売上高前年比（週次、同曜日比較）

※2021年3月・4月はそれぞれ2019年3月・4月比



# 2021年2月期 業績概要（連結損益計算書）

単位：百万円（百万円未満切捨て）

【 連 結 】	2021年2月期 通期			2020年2月期 通期				
	当期実績		計画（注）		計画比	前期実績		前期比
		構成比		構成比			構成比	
売上高	8,288	100.0%	9,252	100.0%	89.6%	13,732	100.0%	60.4%
営業利益	▲1,905	-	▲1,423	-	-	131	1.0%	-
経常利益	▲1,384	-	▲1,134	-	-	232	1.7%	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲1,502	-	▲1,104	-	-	48	0.4%	-
1株当たり 当期純利益	▲564.56円	-	▲415.20円	-	-	18.11円	-	-

■ 計画比（カッコ内は利益に対する効果）：

（注）2020年10月15日付で発表した通期計画

【売上高】

- 2020年11月・12月の営業時間短縮、2021年1月・2月の営業時間短縮及び酒類提供制限による直営店減収、フランチャイズ事業減収

【営業利益】

- 売上高の減少に伴う営業損失の計上（-）
- 管理部門等のコスト削減（+）

【経常利益】

- 雇用調整助成金、営業時間短縮にかかる協力金計上（+）

【親会社株主に帰属する当期純利益】

- 直営店の減損損失計上（-）

■ 前期比：新型コロナウイルス感染症拡大の影響により大幅な減収・減益となった

# 2021年2月期 業績概要（連結貸借対照表）

単位：百万円（百万円未満切捨て）

科目	当連結会計年度	前連結会計年度	増減	科目	当連結会計年度	前連結会計年度	増減
現金及び預金	1,096	1,064	31	買掛金	319	544	△225
売掛金	379	608	△229	短期借入金（注）	1,197	483	714
棚卸資産	114	171	△57	未払金	930	642	288
その他	379	164	216	未払法人税等	143	136	8
<b>流動資産合計</b>	<b>1,969</b>	<b>2,008</b>	<b>△38</b>	株主優待引当金	60	64	△3
有形固定資産	1,302	1,608	△306	その他	1,306	502	803
建物及び構築物（純額）	1,078	1,300	△222	<b>流動負債合計</b>	<b>3,958</b>	<b>2,374</b>	<b>1,583</b>
その他（純額）	223	308	△84	長期借入金	319	763	△444
無形固定資産	14	35	△20	資産除去債務	821	821	△0
のれん	-	10	△10	その他	245	332	△87
その他	14	24	△10	<b>固定負債合計</b>	<b>1,385</b>	<b>1,917</b>	<b>△531</b>
投資その他の資産	1,078	1,162	△83	<b>負債合計</b>	<b>5,343</b>	<b>4,291</b>	<b>1,052</b>
投資有価証券	0	8	△8	資本金	50	830	△780
長期貸付金	538	524	13	資本剰余金	389	900	△510
敷金及び保証金	589	625	△35	利益剰余金	△1,448	△1,237	△210
その他	△49	3	△53	新株予約権	30	30	-
<b>固定資産合計</b>	<b>2,395</b>	<b>2,806</b>	<b>△411</b>	<b>純資産合計</b>	<b>△978</b>	<b>523</b>	<b>△1,502</b>
<b>資産合計</b>	<b>4,365</b>	<b>4,815</b>	<b>△450</b>	<b>負債純資産合計</b>	<b>4,365</b>	<b>4,815</b>	<b>△450</b>

（注）短期借入金には1年内返済予定の長期借入金を含む。

・ 主な増減：有形固定資産の減少：減損損失の計上による

短期借入金の増加：金融機関借入の実施、既存借入金の返済条件変更（長期借入金から振替）による

未払金及びその他流動負債の増加：社会保険料、消費税等の納付猶予を受けたことによる

長期借入金の減少：既存借入金の返済条件変更による（短期借入金への振替）

純資産合計が1,502百万円減少し、当連結会計年度末で△978百万円となる

# 2021年2月期 業績概要（連結キャッシュ・フロー計算書）

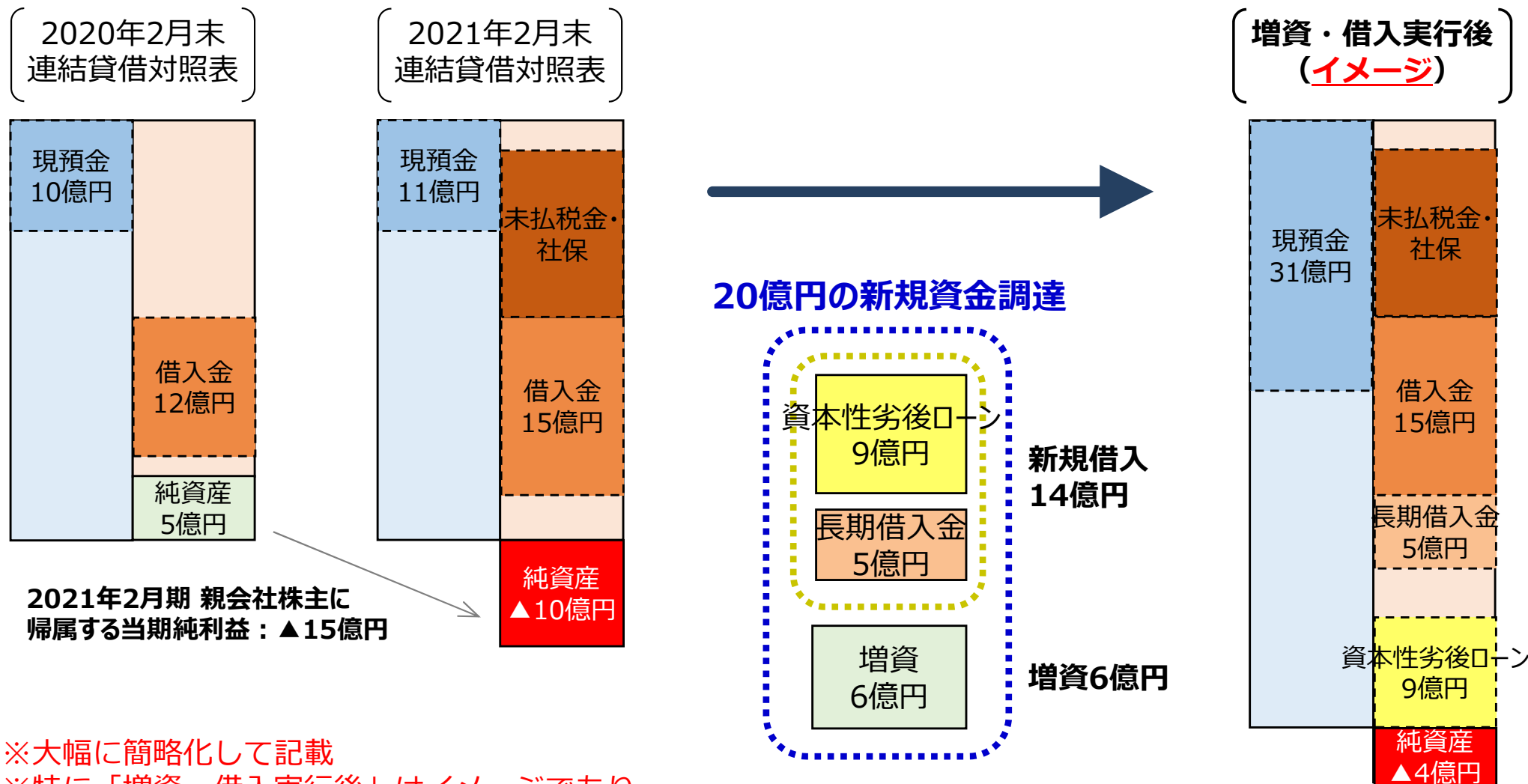
区分	当連結会計年度	前連結会計年度
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△99</b>	<b>921</b>
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	△1,536	182
減価償却費（のれん償却含む）	302	335
減損損失	155	50
売上債権の増減額（△は増加）	231	△21
仕入債務の増減額（△は減少）	△225	△3
未払金の増減額（△は減少）	283	36
未払消費税等の増減額（△は減少）	245	127
法人税等の支払額	△1	△16
その他	445	231
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△101</b>	<b>△660</b>
有形固定資産の取得による支出	△121	△220
貸付けによる支出	△30	△446
敷金及び保証金の回収による収入	20	8
その他	29	△1
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>232</b>	<b>△159</b>
短期借入金の増減額（△は減少）	510	-
長期借入れによる収入	120	300
長期借入金の返済による支出	△360	△561
その他	△37	102
<b>現金及び現金同等物の増減額（△は減少）</b>	<b>31</b>	<b>101</b>
<b>現金及び現金同等物の期首残高</b>	<b>1,064</b>	<b>963</b>
<b>現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>1,096</b>	<b>1,064</b>

単位：百万円  
（百万円未満切捨て）

（注）  
主要項目のみ記載

- ・ 大幅な減収減益であったものの、税金・社会保険料等の納付猶予を受けたことにより、営業活動によるCFは△99百万円にとどまった
- ・ 短期借入れを行い、運転資金に充当

- 2021年3月31日に、新規14億円の長期借入を実施
- 2021年4月19日付取締役会決議で、第三者割当による新株発行を決議（5月7日払込予定）



※大幅に簡略化して記載  
 ※特に「増資・借入実行後」はイメージであり、  
 実際の数値は異なる



単位：百万円（百万円未満切捨て）

科目	2021年2月期 通期実績	2022年2月期 通期計画（注）	前期比
売上高	8,288	11,536	39.2%
営業利益	△1,905	82	—
経常利益	△1,384	590	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	△1,502	582	—

（注）2021年4月19日付で発表した通期計画

■ XEXグループ

- ・通期既存店売上高は2020年2月期比89.6%で設定（上半期77.7%、下半期101.9%）

■ カジュアルレストラングループ

- ・通期既存店売上高は2020年2月期比85.4%で設定（上半期73.6%、下半期97.5%）

■ その他

- ・本社コストの削減効果（+）を織り込み

## 1. 2021年2月期 業績概要と今期の見通し

- 2021年2月期 売上高の状況
- 2021年2月期 業績概要（連結）
- 資本政策の状況
- 2022年2月期 通期見通し（連結）

## 2. 当社グループの近況とトピックス

- 2022年2月期の取り組み
- CÉ LA VI TOKYO

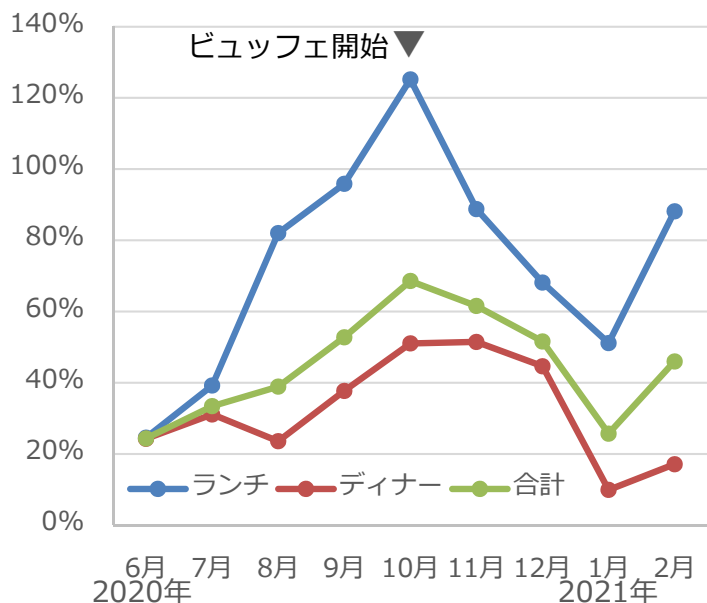
- 以下の施策に取り組むことにより、売上高の確保と、収益構造の改善を進める

施策	セグメント	取組内容
売上構造の見直し	<b>XEX グループ</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 個人需要をターゲットとした販促施策の実施</li> <li>■ デリバリー新業態の導入・育成</li> <li>■ 低投資の郊外型店舗モデル導入</li> </ul>
	<b>カジュアル レストラン グループ</b>	
店舗の 数値管理強化	<b>全社</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 粒度の細かいコスト管理を継続</li> </ul>
仕入コストの 削減	<b>全社</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 物流システムの効率化</li> <li>■ 取扱いアイテムの絞り込み、他社商品活用によるコスト削減</li> </ul>
本社コストの 削減	<b>本社</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 引き続き各種コストの見直し</li> <li>■ 売上高回復後もコスト増を抑制</li> </ul>

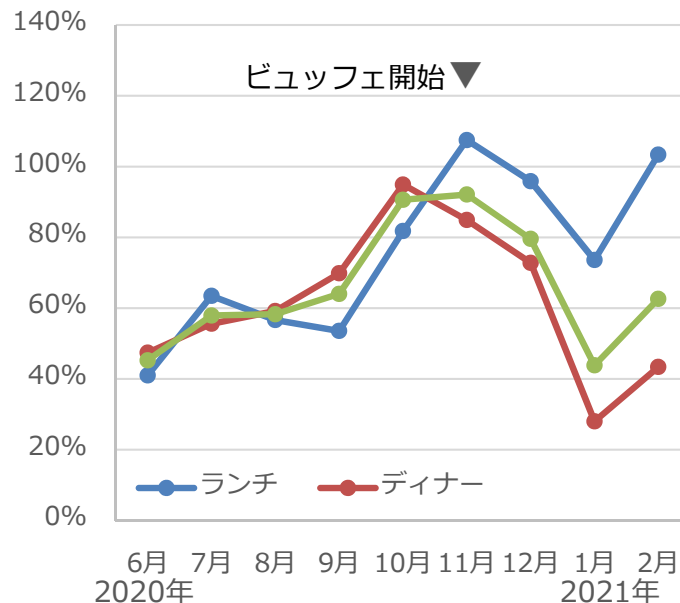
- コロナ下においても、個人を中心にしたランチや休日の需要は堅調
- 付加価値を上げ、単価を上げたことによりランチ売上が増加している

## XEX店舗の時間帯別売上高前年同月比

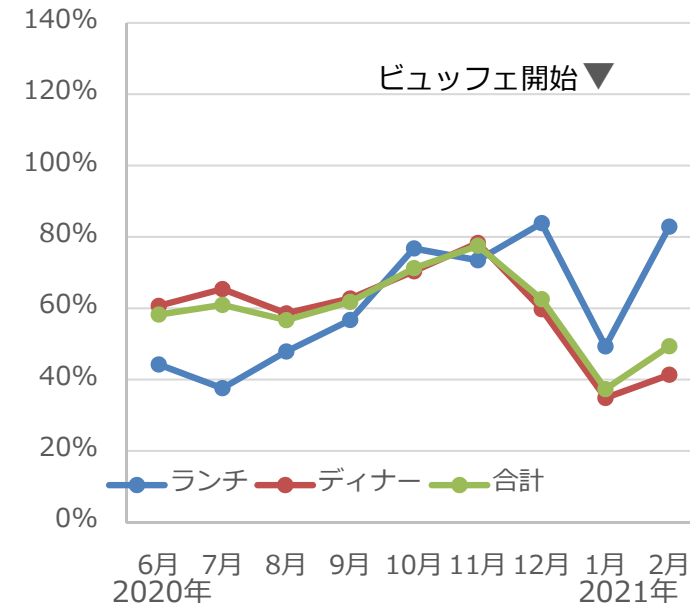
XEX日本橋



XEX東京



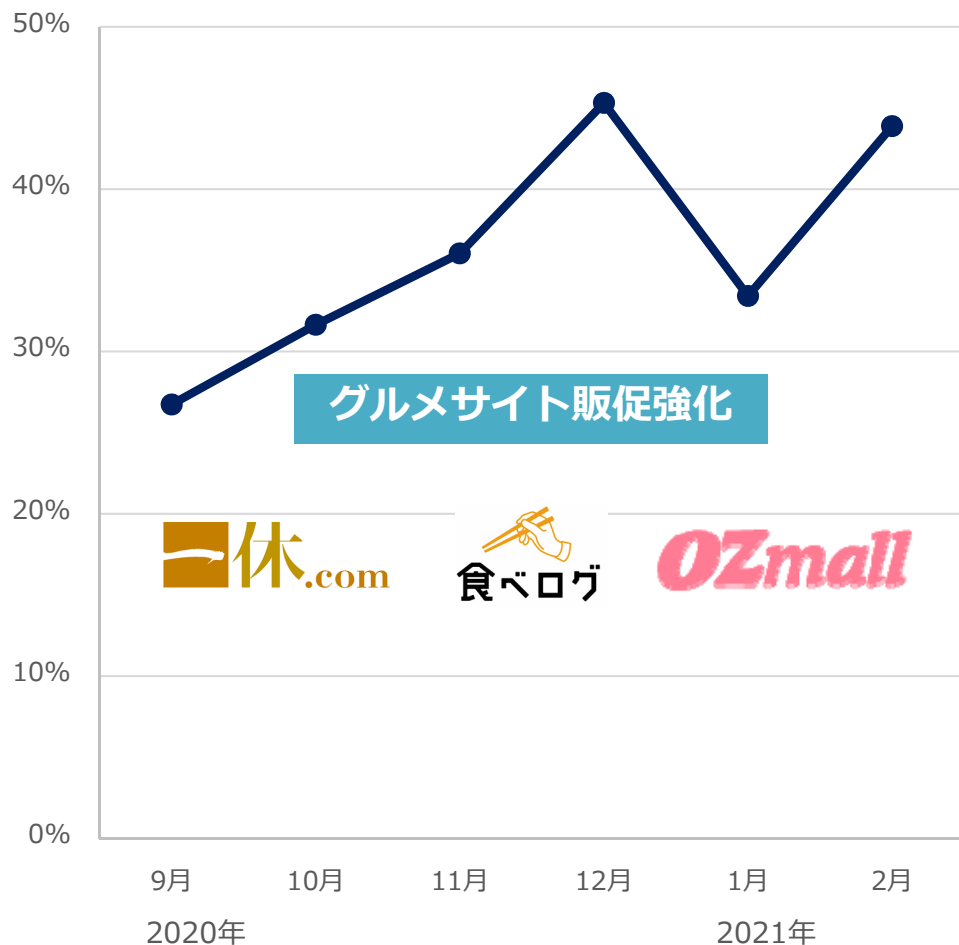
XEX愛宕



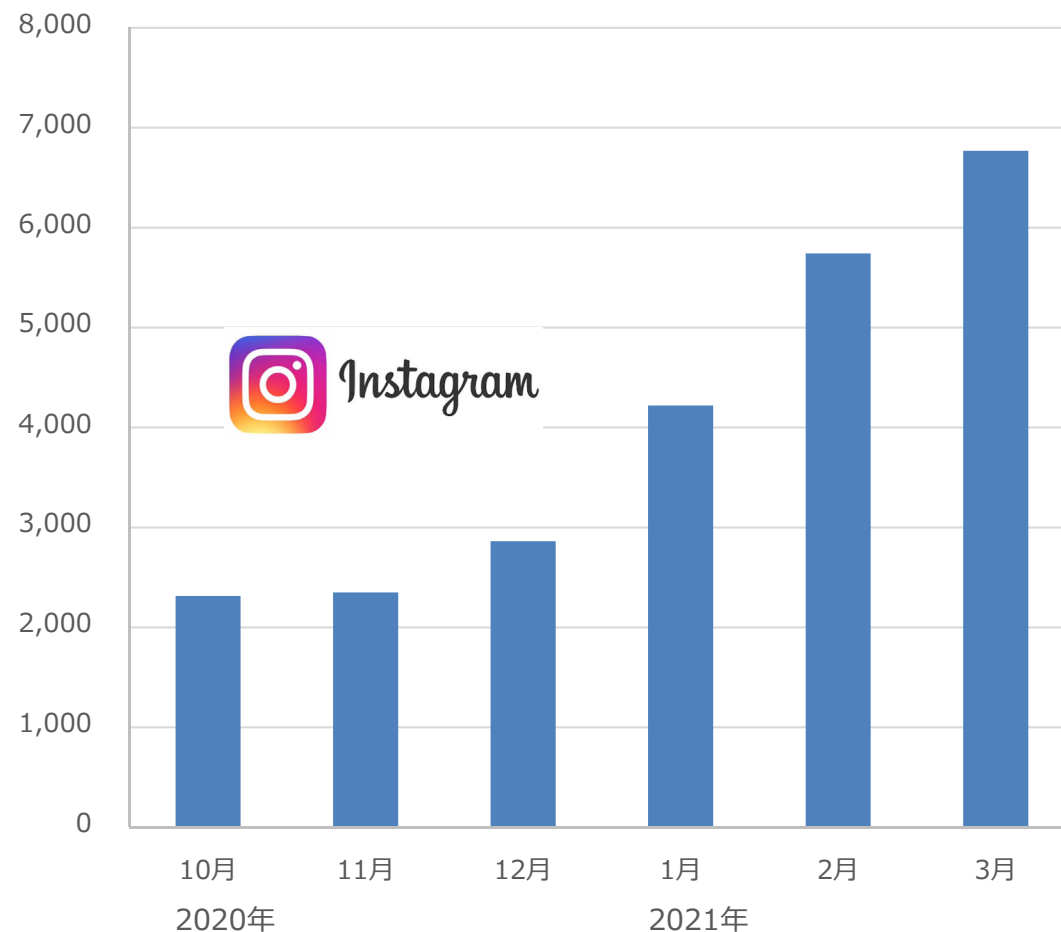
- ランチ売上増を継続。ディナーの回復により、コロナ前を上回る売上のベースを作る
- ランチ・スイーツビュッフェにより女性客の獲得に成功

- 法人、インバウンド需要が縮小する中、個人需要の獲得のためネット販促を強化
- 20代～30代の新規顧客層の獲得により、将来の顧客基盤を作る

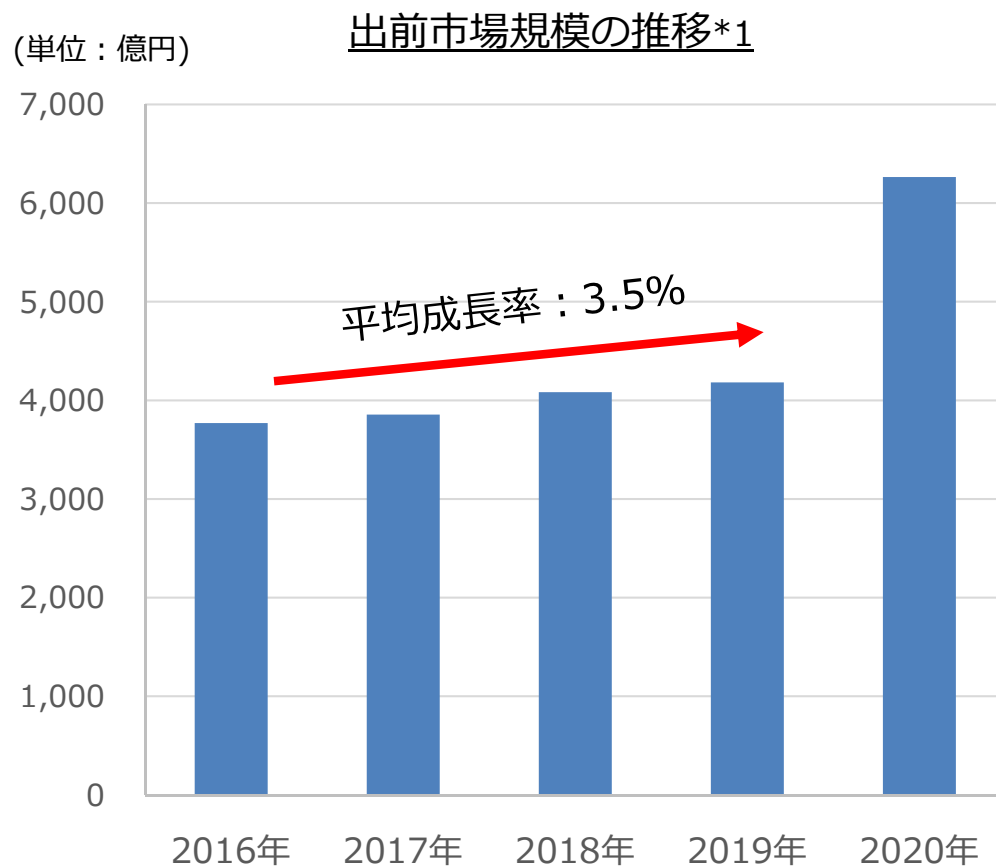
### ネット経由予約の売上比率 (都内XEX4店舗)



### SNSフォロワー数推移 (インスタグラム)



- デリバリー市場はコロナ前から成長を続けていたが、UBERなどの配達代行企業の参入や、コロナ禍による外食自粛、テレワーク推進により急拡大している
- ピザや寿司などの既存デリバリー業態は競合激化により成長が鈍化しており、新しい業態の開発により、売上を伸ばしていく



## 外部デリバリープレイヤーの参入



競争激化・既存デリバリー業態の伸び悩み



**宅配ニーズの高い肉・丼業態「肉市場」を開発。  
既存のピザデリバリー店舗で提供、売上増を実現  
→現在48店舗で導入済**

\*1 エヌピーディ・ジャパン(株) CREST®

- 既存のサルヴァトーレ事業は優良立地に出店し、売上規模は大きい、投資やオペレーション負担の大きいビジネスモデル
- 低コスト小型店舗の開発により、出店候補エリアを拡げ、個人オーナーが参画できる事業モデルを構築する

既存のサルヴァトーレ事業	指標・条件	低コスト小型店舗
800～1000万円	月商規模	400～600万円
主要ターミナル駅・繁華街 (例：新宿、池袋、吉祥寺、大宮など)	出店場所	中堅駅*1 (例：国立、大泉学園、府中、浦和など)
30～40坪	店舗規模	15～20坪
5000～6000万円	初期投資額	1000～2500万円 (居抜き活用)

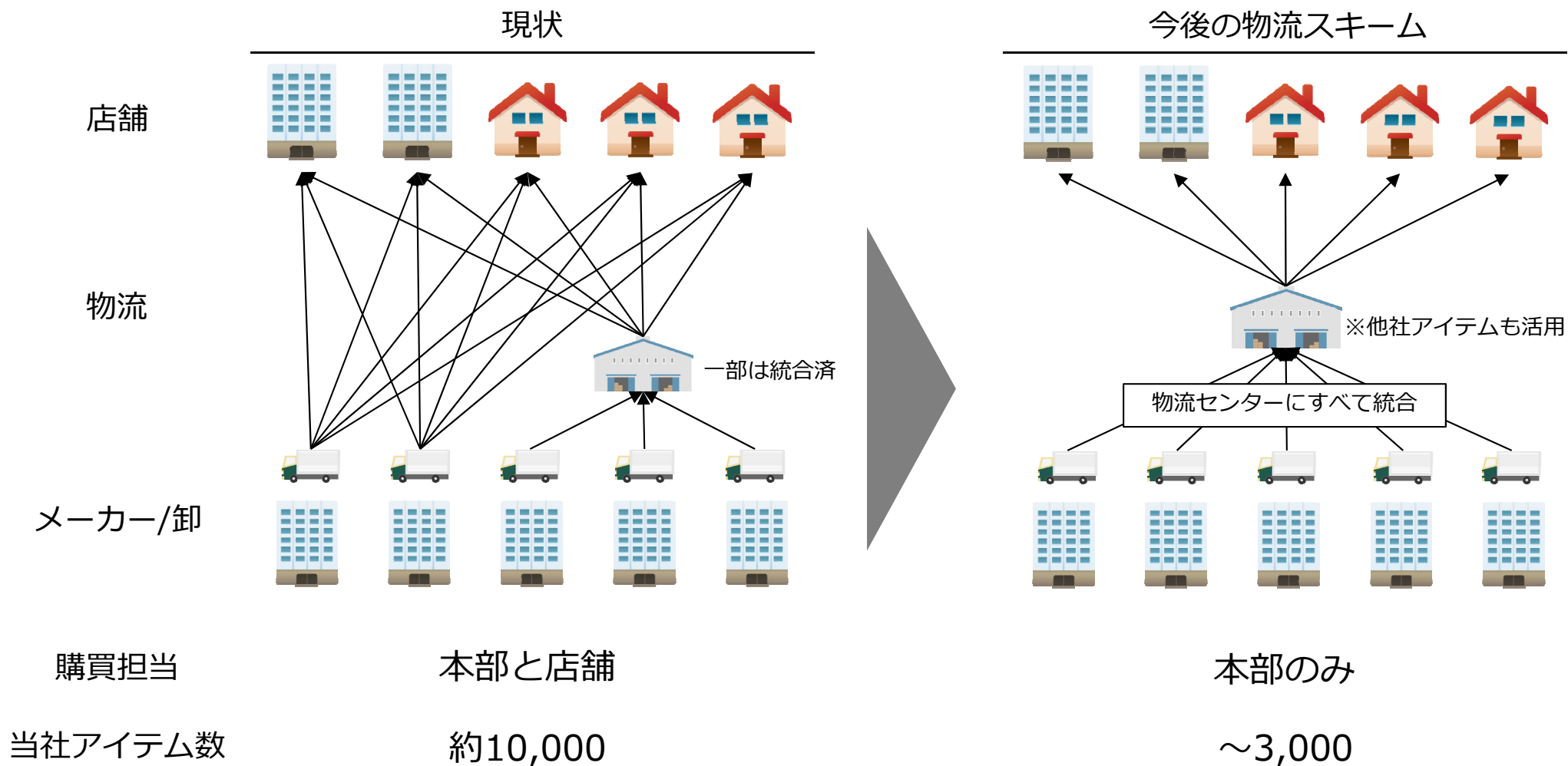
- 投資、オペレーション負担大
  - 大手企業FCやメガFCなどが中心
- 国内出店ポテンシャル**100店前後**

- 投資、オペレーション負担小
  - 個人FCオーナーや社員独立も可能
- 国内出店ポテンシャル**300～500店**\*1

\*1 乗降客数5万人以上と想定(2017年)

(出典：国土交通省国土数値情報ダウンロードサイト([https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/old/datalist/old\\_KsjTplmt-N02.html](https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/old/datalist/old_KsjTplmt-N02.html)))

- 物流システムの効率化により物流費を削減
- 取扱アイテム数の絞り込みや他社商品の活用を行い、商品価格を低減





- 本社コストの抑制を継続（2020年2月期、2021年2月期に行ったコスト削減後の水準を維持）

## 主な削減項目

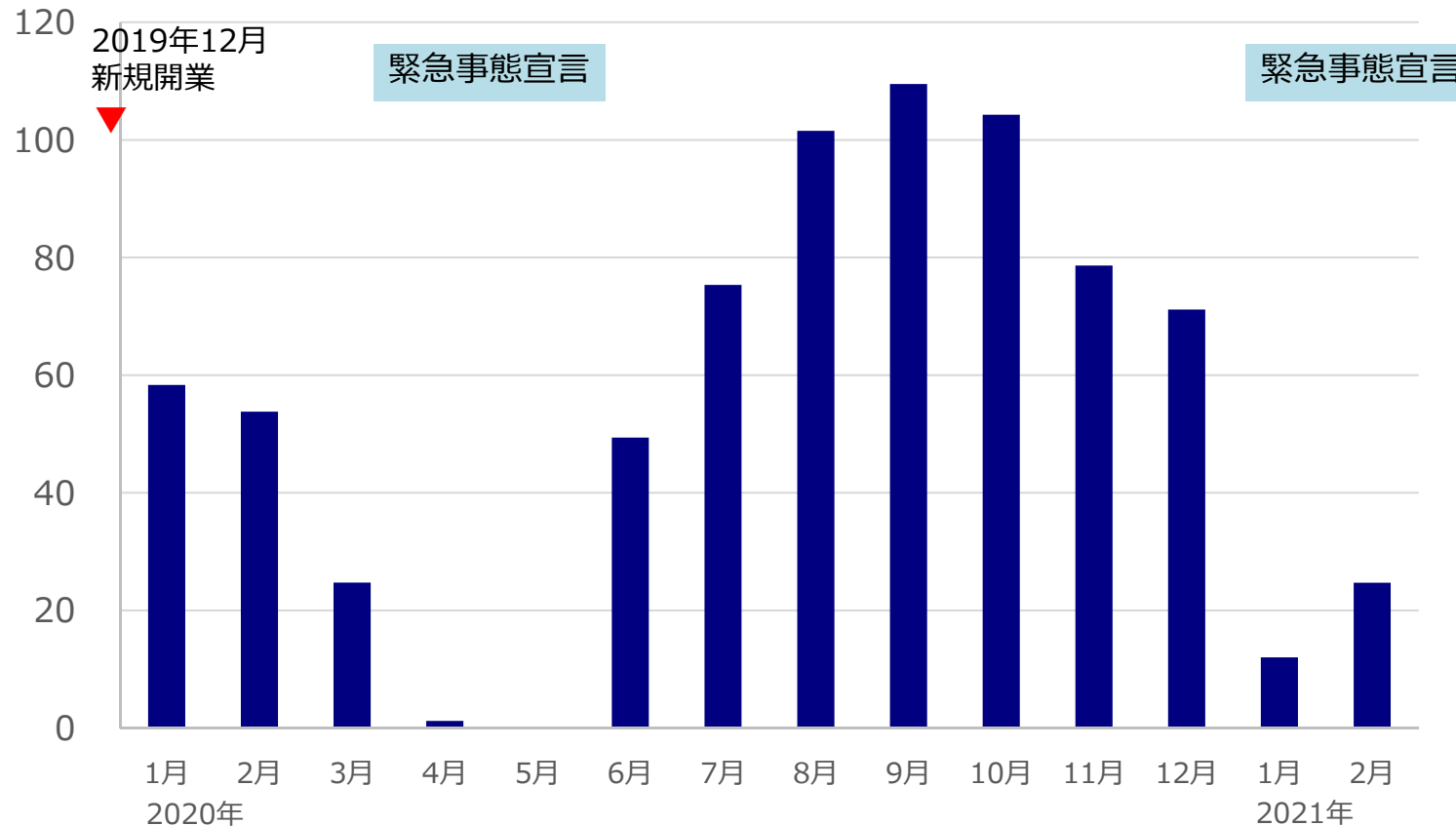
(単位：百万円)

項目	実績	計画	2020年2月期比	
	2020年2月期	2022年2月期		
人件費	452	417	△35	配置転換・人員自然減
租税公課	85	10	△75	減資による外形標準課税減少
支払手数料	174	141	△33	顧問料、その他外部委託費等削減
その他	383	384	1	
<b>本社部門販管費合計</b>	<b>1,094</b>	<b>952</b>	<b>△138</b>	

- 2019年12月開業。しかしその後、コロナ感染者数の増加により売上が軌道に乗らないまま、緊急事態宣言による休業に
- 2020年6月の営業再開後は売上を伸ばし、8月～10月はテラスの活用等により月商1億円を達成
- 今後は、現在の顧客基盤の強化を図るとともに、インバウンド需要の取り込みにより更なる増収を目指す

### CÉ LA VI TOKYOの売上推移

(単位：百万円)



セグメント		主な事業内容	会社名	主な店舗名
XEX グループ	国内	高級レストラン等の運営	株式会社ワイズテーブルコーポレーション	XEX The Kitchen Salvatore Cuomo 名古屋 The Kitchen Salvatore Cuomo 京都 毛利 Salvatore Cuomo atelier 森本 XEX
	国内	カジュアルレストラン等の運営	株式会社ワイズテーブルコーポレーション	PIZZA SALVATORE CUOMO SALVATORE CUOMO & BAR PIZZA SALVATORE CUOMO & GRILL PASTA & PIZZA Salvatore Cuomo PRESTO Salvatore Cuomo 伊太利亜市場BAR こけこっこ Soba & BAR An STEAK THE FIRST Salvatore Cuomo 市場 Paul Bassett The Kitchen Salvatore Cuomo 銀座
	海外	カジュアルレストラン等の運営	株式会社ワイズテーブルコーポレーション	SALVATORE CUOMO & BAR (Manila) The Kitchen Salvatore Cuomo Seoul The Kitchen Salvatore & BAR SALVATORE CUOMO
その他の 事業	国内	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食料品等の卸売、小売事業及び不動産賃貸事業等</li> <li>・労働者派遣事業及び有料職業紹介事業</li> </ul>	株式会社ワイズテーブルコーポレーション 株式会社パートナーワイズ	

本資料は情報提供を目的としており、株式購入や売却などを勧誘するものではありません。本資料には当社の出店計画や業績見通しなどが含まれております。

将来の計画・予測に関しましては、現時点で入手可能な情報もとに当社が合理的であると判断する一定の前提に基づき当社が作成したものでありますが、リスクや不確定要素を含んでおり、実際の業績等は様々な要因により大きく異なることがあります。

問い合わせ先：経営企画グループ  
TEL：03-5412-0065